

## ～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

### ◆VCN°56 ル・クロ・デュ・テュ・ブッフ

生産地方：ロワール

### 新着ワイン2種類♪

#### VdF ロモランタン フリリュース 2020 (白)

2020年は、ドメーヌ史上もっともブドウが早く熟し、傷ひとつない多くの房に恵まれた豊作の年だった。だが、夏の日照りによりブドウの窒素が例年よりも少なかったため、発酵にとっても苦労した。冬になると寒さの影響で酵母の働きが弱まり、残糖を10g/Lほど残したまま途中で発酵がスタググしてしまった。翌年の春に再び発酵が始まったが勢いがなく、結局2021年のロモランタンの澱を混ぜて再び発酵を促しやっと完全に終わることができた。熟成については、収量が多かったので古樽以外に400Lの新樽を1樽新たに追加使用した。2021年の12月の時点ですでに全ての発酵は終わっていたが、味わいが落ち着くまで半年さらに樽で寝かせ、完成までに実に2年の歳月を要した。出来上がったワインは、ピュアかつミネラリーでクリスタル感が半端ない！まるで旨味のしっかりと効いたピュアなダシを飲んでいるように味わいが上品で奥深く、後からじわっと余韻を引き上げる骨太な酸が最高のハーモニーを奏でる！2020年は、ともすればボラティル上昇によりワインをダメにする、そんな醸造リスクの高い年で、実際ティエリも何度もボラティル上昇のピンチに対峙したが、最終的にこのようなステージの高いワインにまとめてくる彼のセンスには唯々脱帽するしかない！

#### VdF ロモランタン フリリュース 2021 (白)

2021年は、ブドウが晩熟かつ近年で一番不作だった2017年をさらに上回る凶作の年だった。収量は80%減…。400L樽1樽分しかできなかった。醸造は、前年と真逆で、発酵期間が2週間とまるで教科書のように早く終わった。出来上がったワインは、前年よりもスレンダーでみずみずしく、優しいミネラルが余韻につれて広がるとても上品な味わいに仕上がっている！口に入れた途端、透明感のあるエキスを溶け込んだ塩気のあるミネラルがスッと五臓六腑に染み入る感覚は、まるでダシの効いたお吸い物を飲んでいるようだ！同じピュアさでも、2020年の奥行きのある複雑な旨味と異なり、2021年はとてもシンプルかつダイレクトにミネラルの旨味を感じる！野菜や魚介など素材を生かしたシンプルな料理や和食と合わせたいワインだ！

### ミレジム情報 当主ティエリ・ピュズラのコメント

2020年は、ブドウが早熟で収量にも恵まれた当たり年！冬のスタートは暖冬で雨が多かった。3月半ばに5月中旬並みの暖かさが続き、ブドウは一斉に芽吹いた。4月に0℃前後まで下がる寒波が降りたが、ほとんどのブドウは影響がなかった。開花は6月初めと例年よりも2週間ほど早くとても順調だった。病気においては、6月まで適度に雨が合ったことで、一部オイディウムが蔓延したが、散布を適時に行ったことで繁殖をうまく抑えることができた。ブドウの成長の勢いは止まらず、開花の終わりの時点で早期収穫、そして豊作が予想された。7月に入るとぱったり雨が止み猛暑と日照りが続いた。8月は猛暑がいったん落ち着くが、畑は若干水不足の傾向にあった。だが、収穫直前の8月20日に20mm前後の雨が降り、この恵みの雨によりブドウは一気に潤いを取り戻し、最終的に多くのブドウを豊作で締めくくることができた！

2021年は、春の遅霜とミルデューにより収量が大幅に減ったとても厳しい年だった。4月5日から8日にかけてシュヴェルニー帯に寒波が降り、早朝の気温は-3℃~-7℃、主芽はほぼ全滅。その後遅れて出てきた副芽も房が少なく、霜による被害は80%前後に及んだ。また5月、6月は気温の上がない雨の多い不安定な天候が続き、ブドウの成長は前年よりも1ヶ月ほど遅かった。その後も不安定な天候が続き、ミルデューが猛威を振るったが、霜により80%以上失われた各ブドウはミルデューを寄せ付けない風通しの良い環境にあり、ほとんど被害がなかった。7月中旬になると雨も止み再び太陽が戻ってきたが、気温は穏やかで、ブドウの成熟にも時間を要した。

## 「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

2021年は、ドメーヌのブドウが霜により壊滅だった厳しい年だった。それに対し今年2022年はどうなのか？ サンプルのワインの受け取りも兼ねてテュ・ブッフを訪問した。到着するとちょうどドメーヌは収穫の最中だった。（写真①）青い空が澄み渡る快晴の下、20人程度の収穫者がせわしなくブドウを切り落していた。遠くには馬の姿も見受けられる。恐らく馬は収穫したブドウケースをトラックまで運ぶ往來を繰り返しているのだろう。



（写真①）青い空が澄み渡る晴天の中、約20人と1頭のチームで収穫

ドメーヌを正式に引退したジャン・マリーが近くで収穫しているのを発見したので(写真②)、彼に何のブドウを今収穫しているのか？尋ねてみた。「カベルネ・ソーヴィニオンだよ」と彼から意外な答えが返ってきて思わずビックリ！確か記憶では、テュ・ブッフのワインのラインナップにはカベルネなんてなかったはず。それにこの畑はル・ブラン・ド・シェーヴルのムニユ・ピノの畑のすぐ隣にあり、こんなところにテュ・ブッフのカベルネの畑があったなんて初めて知った。よくよくジャン・マリーに話を聞くと、このカベルネは今年新しく手に入れた畑で、所有者が年により引退を考えていた時にティエリにタイミング良く話が回ってきたそうだ。当初ティエリもカベルネという未経験の品種に躊躇したが、かつてメルローも仕込んだ経験があり、またブラン・ド・シェーヴルの畑と地続きで、散布や土起こしなどの畑管理が楽ということもあり最終的に取得することを決めたそうだ。



（写真②）カベルネ・ソーヴィニオンを収穫するジャン・マリー



(写真③) 収穫を指揮するティエリと現テュ・ブッフの収穫責任者の長女のルイーズ

ジャン・マリーと話をしている時に、ちょうど視界にティエリが入ったので、近くまで行ってご挨拶。(写真③) 何やら彼は神妙な面持ちで長女のルイーズと話し合っていた。現在のテュ・ブッフはティエリに代わり長女のルイーズが収穫の責任者、そして次女のゾエが醸造を担当している。ルイーズがティエリに相談している内容はざっと要約すると、ブドウが多すぎて収穫ケースが全く足りない状態にあるとのことだった。えっ？今年は何度の水不足による収量不足の年だったんじゃないの？すかさずティエリに質問をぶつけたところ、「今年は収量的にいうと1992年を優に超える今までにない大豊作に恵まれている！」と彼から予想していたことと全く正反対の答えが返ってきた。彼が言うには、今年の豊作の要因は、まず去年のブドウの収量が少なすぎたため今年はその反動で房が大量に付いたこと、春の遅霜がなかったこと、そして収穫中に雨が降り一気にブドウがジュースを蓄えたことの3点を挙げていた。「今ここですぐにヴァンクールの予約を確定してくれるのであれば2022年ワインはいつもの倍以上は分けることができるぞ！ただし発酵が順調に終わればの話だが…」と冗談交じりに含みのある仮約束をディールするティエリ。我々にとっては量を多く分けてもらえるのはもちろん大歓迎だが、最後の含みがどうも気になる…。理由を聞くと、やはり今年は何度の日照りによるブドウの窒素不足が原因で、ティエリ自身も若干発酵に不安を感じているようだ。「現在、窒素不足により酵母の勢いが感じられないキュヴェがいくつかあるのは確かだ。だが、この窒素不足の現象は2011年、2018年、2020年にもすでに経験していて、全て乗り越えてきている。それにまだ収穫は終わっていないし、これからどんどん新しいブドウが搬入され、次々と酵母がカーヴ内を満たし、発酵の勢いの弱いキュヴェもシンクロするように後追いで勢いが付いてくると信じている」と彼は今の状況を正直に語ってくれた。やはり今年は何度も窒素不足という同じ問題を抱えているのだなあ…。

収量的にはテュ・ブッフ久々の大当たり年である2022年。果たしてティエリとゾエはうまく発酵問題をクリアできるのだろうか。とにかく全てのキュヴェの発酵が無事終わることをただただ祈るばかりだ。

(2022.9.19.のドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ